

園長のひとり言 12月のひとり言

～親子の不思議なご縁を大切に！～

12月8日はお釈迦様の成道の日です。人間として生まれたお釈迦様が
お悟りになられ、仏様になられた日で仏教の誕生日とも言えます。

お釈迦様のお悟りとは、どういうことを言うのでしょうか？それは「ご縁」
ということで、物事は全て関係し合って存在しているということに気づかれ
たのです。人も他の人と関係し合って存在しているということです。

「私がいるから貴方がいる 私がいなければ貴方はいない

貴方がいるから私がいる 貴方がいなければ私はいない」

私という誕生には、お父さんとお母さん両親の存在があり、その父と母に
もそれぞれの父と母の存在があります。このように私という存在の背後には、
無限の命の繋がりがあります。「私が生きている」ということ自体、計り知
れない「ご縁」で成り立っています。

そして親子の関係も、予め親がいて子どもを産むのではなく、子どもが生
まれた瞬間に親になり、「親」と「子」は双方の関係の中で成り立っている
のであり、「縁あって」親子になったとしかいいようがありません。この親
子の不思議なご縁を大切にさせていただきたいと思います。

二宮金次郎に「たらいの水」という教えがあります。たらいの水を自分の
方へ引き寄せると向こうへ行き、相手にあげようと押すところらにかえっ
てくる。これは「幸福を独り占めしようとする」と逃げってしまうが、相手のため
に尽しているとは幸福は勝手にやってくる」という教えです。

この教えを二宮金次郎の7代目の子孫である、中桐真理子氏は「人間は皆
空っぽのたらいのような状態で生まれてくる。つまり最初は財産も能力も何
も持たずに生まれてくる。そしてそのたらいに自然やたくさんの人達が水を
満たしてくれる。その水の有難さに気づいた人だけが他人にもあげたくなり、
誰かに幸せになってほしいと感じて水を相手の方に押しやろうとする。そし
て幸せというのは、自分はもう要りませんと他人に譲ってもまたかえっ
てくるし、絶対に自分から離れないものだけれど、その水を自分のもだと考え
たり、水を満たしてもらうことを当たり前と錯覚して、足りない足りない、も
っともっとかき集めようとするとは幸せが逃げていく。」という譬え話だと教
わったそうです。

自分が生きていることに有難さを感じる事が出来ると、もっと家族や社
会に優しくなれるのではないのでしょうか。